

## 平成25年度 学校評価 外部評価委員会コメント

### 1 地区小学校 代表

- ・冒頭に本校生徒の挨拶についてお褒めの言葉がある。
- ・児童と給食会を実施している中で小学生に対して地域の誇りはなんだろうという問いかけをしている、明成高等学校のバスケットボール全国優勝の話題が出ており、同じ地域の中でそのような学校があることは素晴らしいことで誇りである。
- ・生徒・保護者・教員の評価のずれがある点について、小学校も同じである、教員の評価が高いことは教員の意識が高いことであり、職員会議での校長先生からの具体的な取り組みが掲げられ実行していることが理由と考えられる。
- ・生徒の評価が低い点について、非常に素晴らしい活動や成果がでているにも関わらず生徒自身の評価が低いので、褒めることや自信を持たせること、小さいころからの自己有用感や肯定感が大切と感じた。
- ・地域にひらかれた学校づくりを目指し取り組んでいることが非常に素晴らしく、同じ地域として自慢できる学校として応援していきたい。

### 2 地区中学校 代表

- ・冒頭に男子バスケットボール全国優勝について感激の言葉がある。
- ・生徒指導の難しさを共感、生徒はもとより保護者も大変である。
- ・調理実習や行事を通じて中学生と高校生との交流に感謝と継続の要望がある。
- ・入試業務について、積極的に丁寧にアドバイスや説明をしていただいたことに感謝の言葉がある。

### 3 学区連合町内会 代表

- ・明成のイメージが5・6年前から変わってきており、スポーツ面や文化面などで多く取り上げられるようになった。地域の人をよく見ている。夏祭りで和太鼓の演奏をしてもらっているが生徒の意識が変わってきており、生徒が自信をもってきていると感じる。教育内容が徹底されていることが感じる。調理科による地域老人への宅配弁当について感謝の言葉がある。
- ・アンケートについて、生徒と教員のギャップが大きいことが気になる、摺り合わせが必要と感じており、調理科とスポーツコース以外は目標をより具体的に示して取り組んだほうがよい。
- ・地域の活性化についての要望がある。地域の一員という意識づけをもってほしい。町内会行事（夏祭り・運動会・防災訓練など生徒の参加や協力の依頼がある。

### 4 福祉関係 代表

- ・冒頭に「いきいき財団」で高齢者対象の大学を開校し、仙台大学の施設や学生ボランティアの協力体制についての御礼の言葉がある。
- ・大学と高校の卒業生の採用状況について及び国家資格の今後の動向についての紹介がある。

## 5 企業 代表

- ・社会で働いていくための人材育成についてのアドバイスがある。うそをつかないことが大切である。
- ・新入社員（現代人）について、人のせいにする新型うつや朝食を食べない偏食者がいる。
- ・高校生の職場体験について、協力要請がある。

## 6 松操会 代表

- ・同窓会の現状について、成り手が少ないことや会合に集まらないこと、個人情報保護法により連絡ができないこと、寄付の連絡と思われ話もできないなどの紹介がある。
- ・35年近く高校の状況を見ていて、35年前は酷かったが、最近の生徒はよくなっており、授業内容も素晴らしいとの感想がある。
- ・卒業生の活躍について、新聞やテレビなどで取り上げられることが多くなっており、自分の店をだしている調理科卒業生や箱根駅伝に出場している健康スポーツコース卒業生などの紹介がある。
- ・今後も支援していきたい。

## 7 学識者 代表

- ・剣道の授業についての感想、靴がそろえて置いてあったことに感銘した。
- ・資料結果について、アンケートを生かして新しい戦略をたて実行してほしい。
- ・高大連携について、強化をもっともっと深めていきたい、男子バスケットボールのトレーナーの紹介、新入生合宿での学生ボランティアの紹介、生徒会と学友会の連携など新たな連携を希望している。
- ・学校運営について、校長の意気込みが大切で、中堅にあたる部長は一人ひとりがさらに力をつけることベテランの参与の先生はアドバイスを行ない、調和のとれた体制ができれば、もっともっと良い学校になっていく。